

## 生涯学習・社会教育関係職員研修講座【東青地区研修】

5月18日(木)13:00~15:00 県総合社会教育センター 受講者23名

### 1 趣旨

生涯学習・社会教育関係職員及び関係団体職員等の資質向上とネットワーク形成を図ることを目的に、業務遂行に係る基礎的・実務的な研修、地域課題の把握と課題解決につながる実践的な知識・技能の習得のための研修を行う。

### 2 内容

【講義】「多様な人々のつながりと新しい技術の活用による生涯学習・社会教育の推進」

弘前大学 講師 深作 拓郎（ふかさく たくろう）氏



### 3 講義要旨

- なぜ、今「地域」と「教育」が問われているのでしょうか。「サービス化」社会の進展によって人々が交わらなくなってしまっていることが問題だと考えています。
- 生涯学習に関する県民の意識調査から、県民の学習活動は停滞傾向にあります。このことによっては、社会的課題、健康・障害による課題、経済的課題がより顕著になってきています。
- 第15期青森県生涯学習審議会では、「包摂的な社会の実現」「新しい技術の活用」「学びと活動の循環」を柱に提言をまとめました。
- 社会教育が公教育である意味を考え、「答え合わせ」ではなく、「応え合う(共感できる)関係づくり」を創っていくことが必要です。

### 4 アンケート結果から

受講結果に満足	61%	どちらかと言えば満足	39%
どちらかと言えば不満足	0%	不満	0%

(受講者の感想)

- ・「社会教育でできることは何か」、全ての人に問いかけ、共感共生していきたいメッセージです。本当に素晴らしい研修でした。今後の活動に、そして仲間にしかりと届け、発信し、歩んで参ります。
- ・普段、自分が暮らしている地域という言葉が大きな意味を持っていて、身近なことを考えるだけでも社会教育につながるのだと気づかされました。大変有意義な機会でした。

本研修は、講師 深作氏が、第15期青森県生涯学習審議会の答申について、事例を取り上げながら分かりやすく解説し、受講者にとって答申を学ぶよい機会となりました。深作氏の研究でもある「学びと活動の循環」では、共に実践し、共感し合える関係性が大切であり、誰かのためにではなく、みんなで一緒に取り組んでいくことが求められているという講話に強い関心が寄せられていました。

最後に、「これからの社会教育行政に求められることは、すべての人々がコミュニティに参加できるしくみづくりです。青森県版ウェルビーイング社会の創造を社会教育がどのようにアプローチしていけばいいのか、みんなで考えていきましょう。」という言葉で講義が締めくくられました。